

映像と舞台の内と外

——言葉、物音、表象——

日本学術振興会特別研究員PDによる合同セミナー

神戸大学を受入機関として映画や音楽を研究する、日本学術振興会特別研究員PDの最新の研究成果を紹介する研究会です。正清氏はフランスの映画監督ジャック・タチ作品における台詞音声の特徴について報告します。松井氏は社会主義期ハンガリーで設立された民俗舞踊団であるハンガリー国立民俗アンサンブルによるジプシー（ロマ）の表象の多面性について分析します。文化・芸術に関心のある方はもちろん、日本学術振興会特別研究員に興味のある大学院生やPDの方、研究者って何をするの？と気になっている学部生の皆さまもぜひ気軽にお立ち寄りください。発表後に十分な質疑の時間を設けることで、この会が新たな若手研究ネットワークの発展につながることも期待しています。

日時 2023年 3月20日（月） 14:00-16:00

場所 神戸大学鶴甲第1キャンパス A403（中会議室）

形式 対面・事前申し込み不要

ジャック・タチ映画における声の使用について

正清 健介 日本学術振興会特別研究員PD（受入研究者：板倉 史明）

一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了。専門は映画研究。同大学院法学研究科非常勤講師などを経て現職。主な論文に「小津安二郎『お早よう』におけるオナラの音」（『表象』第10号、2016年）。

ハンガリー国立民俗アンサンブルにおけるジプシー（ロマ）表象の多面性分析

松井 拓史 日本学術振興会特別研究員PD（受入研究者：岡本 佳子）

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。専門は音楽学。主な論文に「ハンガリー国立民俗アンサンブルの東西ツアー：彼らは旅するプロパガンダ集団なのか？」（『フィロカリア』第38号、2021年）。

コメンテーター

大谷 晋平 神戸大学国際文化学研究科学術研究員

市原 晋平 神戸大学人文学研究科助教

共催 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費「声の映画史——映画における声の使用とその変遷」「ハンガリー国立民俗アンサンブルにみる政治性と行為主体性：社会主義期から現代まで」